

## 絵葉書にみる大正時代の博覧会

資料提供 山田俊幸  
執筆 安田政彦

### はじめに

国内博覧会は欧米の博覧会を模倣して始められ、明治の文明開化とともに勸業事業の一環として隆盛を極めた。明治時代における国内の博覧会は政府主催の内国勸業博覧会に代表されるが、第五回内国勸業博覧会（一九〇三）をきっかけに、しだいに娯楽的要素を拡大していく（内国勸業博覧会と明治の政策については、國雄行著『博覧会の時代―明治政府の博覧会政策―』、岩田書院、二〇〇五年、に詳しい）。

大正時代には大衆文化の発展と生活様式の近代化に伴って、目的別・地域別に博覧会が開かれるまでになる。その一方で、「富国強兵の国に役立つ人間を教育し、国家を一つにまとめるための大掛かりな装置」（山本尚美「大正日本の縮図―東京大正博覧会」<http://creative.aside.jp/kindai-daijakuin-nb/sosaku-hyoron/project/catalogue/ca-1914-03-02.html>）としての機能も有し、日本の領域支配を目に見える形で国民に提示した。

以下では、山田俊幸氏所蔵の絵葉書から、大正時代の博覧会絵葉書を通して、大正という時代の息吹をうかがう。

### 1 大正時代の博覧会

管見で大正時代一五年間（一九一二～二五）に一一六の博覧会が開催されたことが知られる（付表参照）。一年間に七・七回開かれた計算になる。同じテーマで毎年定期的で開催されたものもあれば、記念博覧会もある。産業、工業の博覧会もあれば、美術工芸や衛生といったテーマでの博覧会もある。実に様々な博覧会が開催され、その多くが大量の人数を得た。現代に比べて娯楽が乏しかったとはいえ、大正時代の国民が目に見える形で近代化を欲していたことがわかる。

大正時代に開催された博覧会には、明治時代以来の勸業目的の産業博覧会のほか、多くの文化生活に関連する博覧会が開催された。

大正時代は旅行ブームでもあった。大正二年（一九一三）二月二十五日より三月二八日まで大坂府立博物館で開催された旅行博覧協会主催の旅行博覧会は、「交通旅行に関する各種の器具及び参考品を陳列して研究に資する目的」で開催されたもので、修学旅行を始め名所旧跡案内、北海道・朝鮮の移住開拓の状況から絵葉書、名物土産など旅行に関する様々な展示が行われた（神戸又新日報一九一三年正月三日）。修学旅行は、明治十五年（一八八二）に栃木県第一中学校（現栃木県立宇都宮高等学校）が東京・上野で開かれた「第二回勸業博覧会」を見学したことがはじまりといわれている。『ウィキペディア』修学旅行、<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%BF%A%E5%AD%A6%E9%85%B8%A1%8C>）、修学旅行を通して学生に大正の近代化、富国強兵のための人格形成などの知識付与が行われたのであろう。

また、衛生観念の普及をめざして、衛生博覧会も行われた。大正四年に大阪衛生博覧会が天王寺公園で開催され、同六年には神戸、同八年には京都岡崎公園で戦捷記念全国衛生博覧会が開催された。同一年には東京国技館で大正衛生博覧会、大阪で児童衛生博覧会、広島でも大正衛生博覧会が開催されている。同一年には兵庫県湊川公園でコドモの趣味と衛生博覧会、同一年には再び大阪で衛生大博覧会が開催された。

衛生博覧会は明治二〇年（一八八七）の「衛生参考品展覧会」（東京・築地）を皮切りに、昭和四〇年（一九六五）頃まで、日本各地で開催された「衛生思想啓発」のための展覧会で、伝染病や性病などの危険から体を守り、予防知識を普及させるといった目的ではあ

たが、公然と性器や裸体の蠟人形などが展示されたこともあって、多くの人を集めた。

江戸川乱歩の『悪魔の紋章』に、以下の場面がある。

「場内（衛生展覧会）の一半には医療器械、一半には奇怪な解剖模型や、義手義足や、疾病模型の蠟人形などが陳列してある。三人はそれらの陳列棚のあいだを、グルグルと忙しく歩き廻った。

毒々しい赤と青で塗られた、四斗樽ほどもある心臓模型、太い血管で血走ったフットボールほどの眼球模型、無数の蚤がはい廻っているような脳髓模型、等身大の蠟人形を韓竹割にした内臓模型、長く見つめると吐き気を催すような、それらのまがましい蠟細工のあいだを、三人はわき目もふらず歩いていく。」（以上、衛生展覧会へ行こう - <http://www.tanken.com/esei.html>。江戸川乱歩『悪魔の紋章』、創元社推理文庫、二〇〇三年）。

大正博覧会の特徴の一つは、家庭や婦人・子どもをテーマにした博覧会が隆盛したことである。生活や家庭は語られるだけでなく、展示されるもの、見るものとなった（小山静子『家庭の生成と女性の国民化』第2章4「児童博覧会と家庭博覧会」、勁草書房、一九九九年）。

大正元年（一九一二）に松坂屋名古屋で行われた第二回子ども博覧会、同二年に兵庫で開かれた婦人博覧会、同四年に東京上野公園で家庭博覧会。同五年に京都岡崎公園で通俗教育子ども博覧会が開かれ、同七年には上野公園で第二回婦人子供博覧会、宝塚でも子ども博覧会が開かれた。翌八年には大阪で婦人子ども博覧会、同一年

年に博多でコドモ博覧会。同一・一二年に京都で第一回・第二回家庭博覧会が開催され、同一五年には皇孫御誕生を記念して、東京上野公園、大阪、京都岡崎公園で大々的にも博覧会が開催された。

婦人博覧会についていえば、すでに東京勸業博覧会（一九〇七）を機に計画され、広く婦人に関する内外の事物を収集し、その進歩改善を図り、婦人の職業生活の在り方を探る目的で、明治四〇年（一九〇七）に開催されている（橋爪紳也監修『別冊太陽 日本の博覧会』、平凡社、二〇〇五年）。大正四年の家庭博覧会は「時代に適合したる家庭及び家庭の生活を、理論の上に説かずして、ありのままの實際に示さん」ことを目的として住宅の実物模型などが展示された（栗原葉子「住まい」と「家庭」思想 明治後半から大正期を中心として」<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/bugai/kokugen/tagen/tagenbunka/vol3/kuriharas.pdf>）。

「一九世紀末において発展した百貨店こそが、このように生活すれば幸福になれますよ、というライフスタイルを作り上げて売り込むことで新たな価値観を作り、そして消費を加速させることで資本主義をも発展させることに寄与した」（筆不精者の雑業サントリー学芸賞の鉄道本略論 番外（3）『鉄道と女性・阪急篇』<http://bokukou-exblog.jp/4662949>）との指摘もあるが、日本では三越百貨店が意識的に家族連れをターゲットにした百貨店作りを行い、そこで演出された生活文化が日本の近代都市文化の創造に影響を与えた（三越百貨店が演出した文化生活<http://www.jusoken.or.jp/edotokyo/ed066.htm>）。

こうした背景とともに、生活の改善運動が官民あげて推進され、その運動の特徴は、①生活が民間だけでなく国家行政の関心課題になったこと。②主婦と子供の地位向上を軸にしてすすめられ、台所改善や子供室の要求となったこと。③「一家団欒」を標語に、言説における居間中心型様式が出現したこと。④生活改良について女性知識人が論陣で大活躍した等が指摘されている（栗原氏前掲論文）。

そうした新しい時代における「新家庭」のありかたを博覧会という形で大衆に提示し、儒教思想の復活と新家庭の婦人子供像を作り上げていくのである。

大正三年に宝塚で開催された婚礼博覧会もその線上に位置づけられるであろうし、文化的近代的生活の普及をめざした大正九年に大阪商品陳列所で開かれた生活改造博覧会、同一一年に大阪箕面桜ヶ丘で開催された住宅改造博覧会なども家族・家の新しい提示であった。

その他、記念博覧会も盛んに開催された。

大正元年、明治記念・拓殖博覧会が東京上野公園で開催され、鳥取県米子では山陰鉄道開通記念・全国特産品博覧会が開かれた。翌二年には京都舞鶴で舞鶴築港記念・全国物産博覧会、大阪天王寺公園で明治記念・拓殖博覧会、上野公園で明治記念博覧会。同三年には上野公園で戦捷記念博覧会が開かれ、神戸では大正天皇即位を記念して大典記念神戸博覧会が開催されている。同四年にも戦捷記念博覧会や大礼記念、大典記念の博覧会が東京、京都、大阪の主要都

市で開催された。同六年には上野公園で奠都五十年記念・奉祝博覧会、広島では福山市制記念・全国特産品博覧会が開かれ、翌七年には開道五十年記念・北海道博覧会が開かれ一四〇万人を集めている。同一年にはワシントン条約を記念して平和記念東京博覧会が上野公園で開催され、翌二年には裏日本鉄道全通・新舞鶴港開港記念・博覧会が舞鶴で、大阪市電気軌道開業満二〇年交通博覧会が天王寺公園で開催された。同三年には東宮殿下御成婚奉祝万国博覧会参加五十年記念博覧会が京都岡崎公園で開かれ、二二〇万人を集めた。同四年には上海で市政一〇周年記念・大連勸業博覧会。翌一五年には先にあげた皇孫御誕生記念ほか、新潟築港記念博覧会が開催された。

こうした様々な記念博覧会は近代国家が形成された明治という時代からの飛躍とさらなる発展を示すものであり、富国強兵の「富国」を大衆に認知させるものであったのであろう。

## 2 明治記念・拓殖博覧会

一九二二年一月一日より二月二十九日まで東京上野公園で開催された本博覧会は、「朝鮮台湾関東樺太及北海道に於ける製産品其他拓殖の状勢を普く内地に紹介し殖産興業の奨励に資すると同時に殖民的進取思想を喚起する」(『中央新聞』一九二二年六月二十七日。神戸大学附

属図書館戦前期新聞経済記事文庫データベース <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/>

[ja/ContentView.jsp?MFT\\_AID=00841476&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1&TOP\\_MIE\\_FAI=00841476](http://ContentView.jsp?MFT_AID=00841476&TYPE=HTML_FILE&POS=1&TOP_MIE_FAI=00841476)) 目的で、樺山資紀を総裁として開催され、延べ六十一万人を集めた。朝鮮館・台湾館・樺太館・関東州館・北海道館など明治時代に獲得した植民地の物産展といった趣きであった。特に注目されたのは、各植民地原住民がわざわざ東京に「展示」されにきたことであろう。

拓殖博覧会における北海道館は、「各種の事実より帰納すれば所謂内国殖民地と称し得ざるにあらず」との理由による(前掲『中央新聞』記事)。

当時、生活のどん底にあった金田一京助は、依頼されて簡単な会話のための単語集である『日本国内 諸人種の言語』を作成するのだが、これによって調査にいけなかった金田一がアイヌ語研究調査



No.001 拓殖博覧会

のネットワークを獲得したといわれている（安田敏朗『帝国大学言語学』の射程―上田万年から金田一京助へ―）[http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rso/cs/kiyou/16\\_3/101-112\\_yasuda.pdf](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rso/cs/kiyou/16_3/101-112_yasuda.pdf)。

NO.001の絵葉書は、北海道館入り口正門写真の絵葉書で、上部中央に青紫インクの丸い記念スタンプが捺されている。それには、「大正元年十月開催 拓殖博覧会記念」とあり、中に日本の領域図が描かれ、「樺太・北海道・朝鮮・満州・台湾」の文字とともに書き込まれている。写真は大木で作った鳥居の奥に北海道館のゲートが見えており、上部を見ると、格子状の天井風のものがみえており、北海道館入り口付近全体が天蓋で覆われていたようにみえる。

### 3 東京大正博覧会

東京大正博覧会は、「明治より大正に移る過渡期に際し一は過去に於ける明治文明の赫灼たる大功績を語り一は洋々たる未来に向けて向上発展せんとする大正の首途を記念するもの」（『時事新報』一九一四年三月二日。神戸大学附属図書館戦前期新聞経済記事文庫データベース[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00841505&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1&TOP\\_METAID=00841505](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00841505&TYPE=HTML_FILE&POS=1&TOP_METAID=00841505)）で、大正三年三月二〇日から七月三十一日まで上野公園・不忍池畔、青山練兵場（現神宮外苑）、芝浦を会場として開かれた。自由、平和が協調され産業博色が薄れ、文化性や娯楽性が盛り込まれるようになり、七四六万人を集めた。皇室から



No.002 大正博覧会染織館及び同別館

の下賜金を受け、明治四〇年の勸業博覧会に倍する十萬坪を会場とした（国書刊行会編『目でみる江戸・明治百科 明治時代四季の行業と博覧会の巻』国書刊行会、一九九六年。会期中の六月一七日には、大正天皇の行幸もあった、「大正・昭和・平成事件簿―大正3年」<http://homepage1.nifty.com/ze60314/jikenb2.htm>）。

工業館や美術館のほか、植民地特設館（朝鮮館や台湾館など）があり、場内各所に救護所や非常報知機を設けるなど、観覧のための工夫もなされた（前掲『時事新報』）。人々の人気を集めたものには、青山練兵場会場の巨大な軍艦三笠の模型、点滅照明等で変幻自在に踊る美人島旅行館、インド聖僧ミイラ展示などがあった（前掲『別冊太陽 日本の博覧会』）。

なお、第一会場と第二会場をつないだエスカレーターは日本初（常設は、この年一〇月に開館した三越呉服店本館一三越デパート）。不忍池に架設された遊覧ケーブル（ケーブルカー）は科学技術のシンボ

ルとされた。これらには見世物的な意味も勿論あったが、先端技術や文化的な生活が手を伸ばせば手に入るものであることを大衆に示すためのものでもあった（大正日本の縮図―東京大正博覧会 <http://creative.esid.e2.jp/kindai-daijirakun-nb/sosaku-hyoron/project/catalogue/ca-1914-03-02.html>）。

東京大正博覧会の絵葉書は何種類かのセットが売られたようだが、ここでは山田氏所蔵の3セットを紹介する。

一つは会場各館の写真絵葉書で、一〇枚で構成されている。

NO.002は「不忍池畔 第二会場 染織館及ビ同別館」の写真絵葉書。右手の和風建築が別館で、その右手に不忍之池がある。通路を挟んで左手が染織館で六角形の尖塔を配した洋風建築。通路左手に街路灯の電灯がみえる。

NO.003は「運輸館及ビ」前述した「エスカレーター」である。機関車を想像させるような洋風建築の左手にみえるのがエスカレーターで、奥の第一会場に上がっていく「ちか道」であった。このさらに左手が染織館になる。

NO.004は前稿（絵葉書にみる明治イマジジュリイの形成と国粹主義の時代へ（一九〇六―一八）、『帝塚山学院大学研究紀要』四〇、二〇〇六年二月）でも紹介した美人島旅行社。「水中美人」「幽霊美人」「蛇体美人」など怪しげな場面解説であるが、幻灯と鏡を応用したトリックで、「理科応用」が強調された（橋爪紳也『化物屋敷』、中公新書一九五、一九九四年）。

NO.005は「第一会場 教育館」。この左手に博物館第一号館があり、右手は学芸館。ステッキをついた洋装の紳士と着物姿の婦

人二人の親子連れであろうか、向かっている先には噴水があった。

玄関を入ると帝劇の模型が正面に展示されていたが、これについて文学博士谷本富氏は、官僚教育主義的で古風な大正教育にあって、「此の帝劇の模型の陳列とは、酷く不調和なものであって、確に渾沌と云わねばなるまい」と述べている（『東京日日新聞』一九一四年六月二四日～三〇日、神戸大学附属図書館戦前新聞経済記事文庫データベース [http://www.hb.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentView.jsp?METAID=00841507&TYPE=HTML\\_FILE](http://www.hb.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentView.jsp?METAID=00841507&TYPE=HTML_FILE) &POS=1&TOP\_METAID=00841507）。

NO.006は「第一会場 美術館」。中央左より松の木の奥が正面入り口。多くの人が行き交っているが、男性は多く山高帽を被っている。袴姿と洋服は半々ぐらいであろうか。目につく女性はほとんどが和服である。右手前に職人風の人が二人みえるが、白いベンチを設置しようとしているのであろうか。

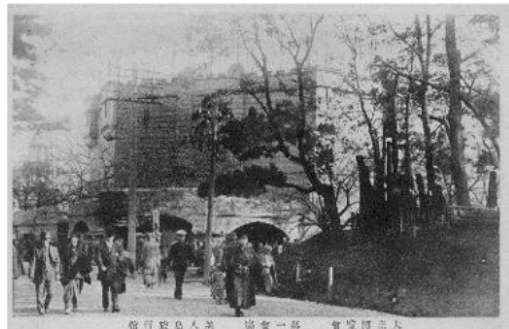
NO.007は「第一会場 鉾山館同林業館及音楽堂」である。音楽堂は、一九一〇年（明治四三）に開催された第一〇回関西府県連合共進会において名古屋鶴舞公園に建てられたルネサンス風デザインの音楽堂とよく似ている。ここでは、いとう呉服店（現松坂屋）や三越、白木屋（現東急百貨店）の少年音楽隊も演奏した。鉾山館前にボックス様のものがあるが、何かは不明。広場中央少し左には制服姿の警官が立っているようである。

鉾山館が独立館とした博覧会は初めてであったが、改良が進んでおり「鉾山の銀座通り」と賞された別子銅山（住友）の出品物が無いな

絵葉書にみる大正時代の博覧会



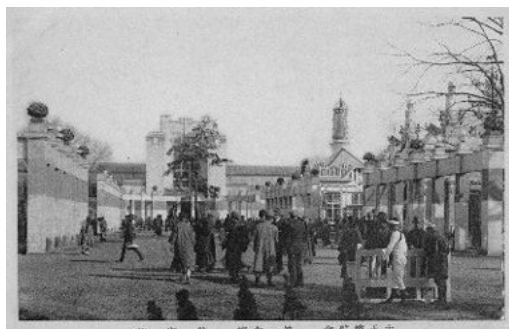
No.003 大正博覧会運輸館及びエスカレーター



No.004 大正博覧会美人島旅行館



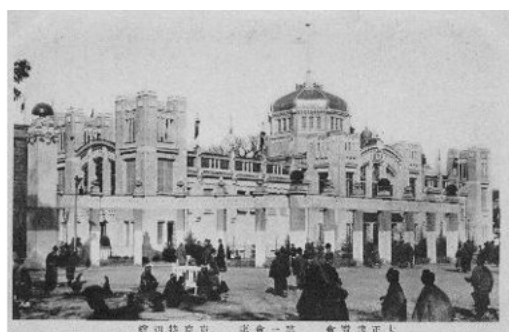
No.005 大正博覧会教育館



No.006 大正博覧会美術館



No.007 大正博覧会鉾山館・林業館・音楽堂



No.008 大正博覧会東京特別館

ど展示に不十分なところもあった（前掲『時事新報』）。

NO.0008は「第一会場 東京特別館」である。そもそも東京府の主催による博覧会であり、特別館が設置された。写真外左手には噴水があり、そのあたりから、会場前にかけて柱列が伸びていた。

通路左に白いベンチ様のものがあり、あたりに法被姿の職人風の男たちが座り込んでいる。しかし、多くは正装で往来していた。

NO.0009は「第一会場 水産館」。西洋城郭風の建物である。ここでもっとも人目を惹いたのは「鯉節店の婚礼の飾物であるので観客の程度が知られる」と評された（前掲文学博士谷本富氏談）。

NO.010は「第二会場 染織館」である。NO.002を奥からみた写真であろう。ヌーボー式建築でモスク風屋根をいたたく尖塔が林立する。右手前に小さな建物は案内所と売店であろうか。第二会場は淡い色に統一し、池畔の弁天堂に長和した東洋風で人目をひいた（前掲『目でみる江戸・明治百科 明治時代四季の行楽と博覧会の巻』）。

NO.011は「第二会場 農業及び運輸館」である。染織館と同じような建築様式の建物が不忍之池を取り巻いていた。手前が農業館、奥が運輸館で、その奥にエスカレーターがあった。左手の建物は不忍之池に張り出した休憩所であろうか。「キリンビール」の看板を掲げている。右手農業館横には荷車がみえる。

この不忍之池を取り巻いた第二会場は、「恐らくは従来各所に開かれた万国博覧会等に於ても類例の乏しいことであって、真に壯観と云わねばならぬ、外国館、機械館、別して台湾館の建物の立派で且

つ面白きに加って各府県の売店を不忍池畔に半円型に連接せしめて居るのは恰も巴里のルーブルの大売店を茲に新に持ち来たした様な趣があつて、真に新趣向と云わねばならぬ。」との評価を得ている（前掲文学博士谷本富氏談）。

もう一つのセットはよく似た写真絵葉書であるが、写真面に六角形花びら形の青紫色記念スタンプが捺されている。NO.012はNO.008と同じ「東京市特設館」であるが、同じような角度から撮った写真ではあるが通行人が違う。また、NO.008には写っていないかった街路灯の電灯が右端にみえる。

NO.012は第二会場止門近くにあった「鉾山模型」で、観衆の人気を集めた。それを表すかのように多くの人が写っており、制服警官が立っている。左側には自転車を引いている人がおり、会場の広さをうかがわせる。

NO.013は、「第二会場 各館」の風景写真。不忍之池をめぐって展示館が建て並ぶ様子が知られる。左側台湾館から斜めに見た風景で、奥に外国館、右手に染織館及び別館がみえる。まだ開場前であろうか、手前の群衆に比して会場内は閑散としている。

NO.015は美術館。記念スタンプは青紫の円形で、中央にラッパを吹く女性が描かれている。文字記載も「（大正博覧会第一会場）美術館」とカッコで記載されており、他のものとは異種のセットであろう。左手前にみえるのは楽譜台のようにもみえるが、消火栓であろうか。美術館に向かう人には紋付き姿も少なからず見え、威儀



絵葉書にみる大正時代の博覧会



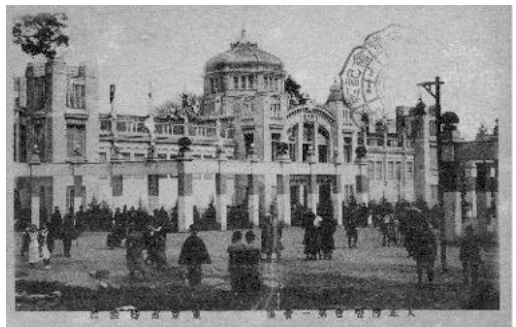
No.009 大正博覧会水産館



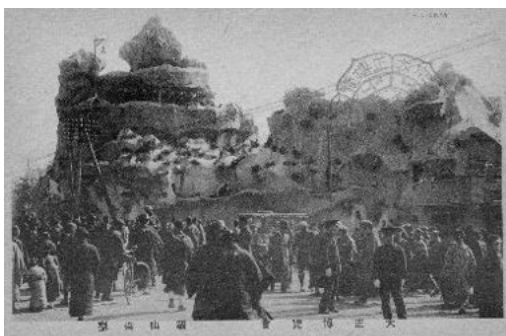
No.010 大正博覧会染織館



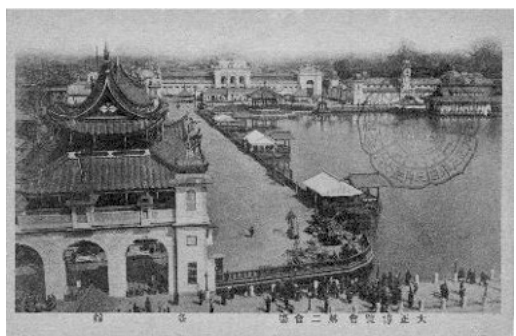
No.011 大正博覧会農業館・運輸館



No.012 大正博覧会 東京市特設館



No.013 大正博覧会 富士山模型



No.014 大正博覧会 第二會場各部

を正した見学であった。

NO.016は染織館であるが、記念スタンプが無い。文字色も茶色で異っており、これも別種の記念絵葉書かもしれない。NO.010とは逆方向からの撮影による。

NO.017はNO.015と同じ記念スタンプが捺されており、文字記載も同じようであるが、左下に「TOKYO TISYO EXHIBIT ION」の記載がある。第二会場の機械館である。この左隅にみえる瓦屋根は台湾館。右奥は動力館。

NO.018は絵柄からして他のものとは大きく異なり、別種の絵葉書セットの一つであろう。左下に桜花様の銀色刻印型スタンプがあり、その上にかさなるように円形の記念スタンプが捺されている。銀色浮き彫りの枠に美術館、演芸館、教育学芸館の写真が配されている。

なお、これほど広い会場に当初は共同使所が一箇所も無かったことが報じられている（大正三年三月二日『東京朝日新聞』（大正ニュース事典）I、毎日コミュニケーションズ出版事業部、一九八六年）。

NO.019～022は、美術館に出品された日本画の絵葉書である。NO.019は左下に「益田玉城」とある。益田玉城は美人画の名手と呼ばれ、官展で華々しく活躍した日本画家で、円山四条派の川端玉章門下となり、川端画学校の教授をつとめて後進の指導にあたった。「花ぐもり」で大正博覧会の褒状を受けた。以後、文展の常連となり、帝展で無監査に推挙され、画家としての地位を不動のも

のにした（「みやぎの101人」<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiki/seikatu/miyazaki101/hito/039/039.html>）。

NO.020は左下に「西田青坡」とある。西田青坡は鏑木清方に師事。大正博覧会に本「木馬の娘」が入選、昭和3年第九回帝展には「新用川岸」が入選し、美人画家として活躍した（鹿島の杜ブログ）  
[http://72.14.235.104/search?q=cache:L19r-N8c3BYJ:ameblo.jp/kashimanomori/page-7.html+%E8%A5%B%E7%94%B0%E3%80%80%E9%9D%92%E5%9D%A1&hl=ja&ct=link&cd=1&gl=jp&lr=lang\\_ja&client=firefox](http://72.14.235.104/search?q=cache:L19r-N8c3BYJ:ameblo.jp/kashimanomori/page-7.html+%E8%A5%B%E7%94%B0%E3%80%80%E9%9D%92%E5%9D%A1&hl=ja&ct=link&cd=1&gl=jp&lr=lang_ja&client=firefox)）。

NO.021は左下に「村瀬秀月」とある。村瀬秀月は後山元春拳に師事し円山四條派を修得する。得意画は動物・人物（「古美術 高美堂」<http://www.koubidou.com/kakejiku5/e-004.htm>）。

NO.022は左下に「有山白崖」とある。  
以上、東京大正博覧会は、大正時代の幕開けにあたって、重工業化への飛躍の狼煙であり、大衆生活文化の近代化への先駆けとして、多くの観衆を集めたのであり、絵葉書の随所にその雰囲気を読み取ることが出来る。

絵葉書にみる大正時代の博覧会



No.015 大正博覧会 美術館



No.016 大正博覧会 染織館



No.017 大正博覧会 機械館



No.018 大正博覧会 記念



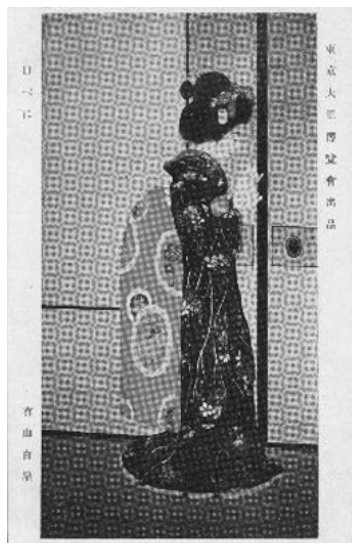
No.019 大正博・出品：益田



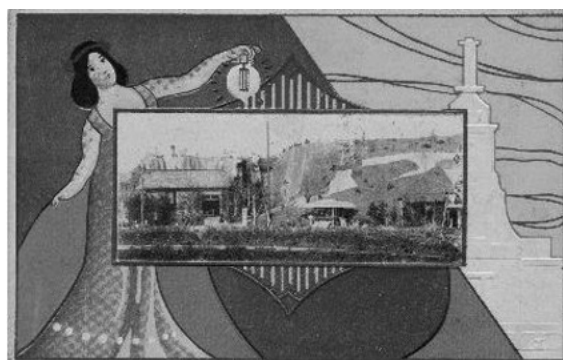
No.020 大正博・出品：西田



No.021 大正博・出品：村瀬



No.022 大正博・出品：有山



No.023 電気博覧会 水力発電所



No.024 電気博光景

4 電気博覧会

大正七年三月二〇日から五月二〇日まで東京上野公園不忍池畔で電気協会主催により開催された。電気事業は目覚ましい発展を遂げていたが、より一層の普及を目指して企画された。不忍池畔の夜は華麗な照明が池面に映えて好評であったという。上野公園では大正博覧会後、たびたび博覧会が開催されてきたが、内外の電気工業製品が勢揃いした本博覧会は大いに人々の関心を呼び、一一四万人もの観衆を集めた。

NO.023は電灯で暗闇を照らす女性をモチーフに、中央に「水力発電所大模型」の写真を配する。高さ一七メートルの山の麓をオーブンパノラマとし、そこに設けた池から山の上に汲み上げた水を一気に落とし、ベルトン式横軸水車五十馬力の発電状況を見せた。余った水は一〇メートルの大滝として見せた(以上、前掲『別冊太陽 日本の博覧会』)。

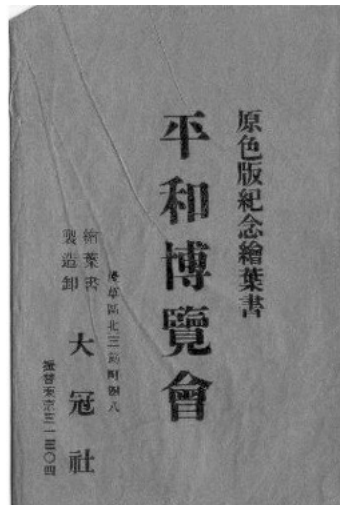
NO.024はイルミネーションに彩られた会場風景を影絵風に描いたもの。下に「コレハ専売特許夜光エラヂウムヲ応用シタ電気博覧会ノ光景デス。日光又ハ電灯ノ光ニ当テテカラ暗イ処デ見テ下サイ。」と右から左に記されている。不忍之池にはボート、ウォーターシュート。奥には観覧車、空には飛行機が二機と風船が一機描かれている。会場風景を描いた連続パノラマ絵葉書一枚である。

5 平和記念東京博覧会

大正一一年三月一〇日から七月三一日まで上野公園不忍池畔で開催された。第一次世界大戦後の国際的平和ムードとともに、日本では大正デモクラシーが華開き、平和を祝福する博覧会が企画された。これまでの勧業的博覧会とは違い、一等国としての文化国家日本を示す試みであった。しかし、入場者千万人を数えたものの、差し



No.025 平和東京博覧會絵葉書入れA



No.039 平和東京博覧會絵葉書入れ(原色版)

引き八九万六千円の赤字となった(前掲『別冊太陽 日本の博覧会』)。開催前から東京府六百万円の予算ではなりたたないため不足分は増税という意見もあった。しかし、後藤新平市長も反対であり、入場料に転嫁



No.032 平和東京博覧会 絵葉書入れ甲

「実景」と銘打っているが、彩色写真絵葉書であるのは同じ。ただ、二枚組のパノラマが二セットある。封筒の絵は平和の象徴としての竖琴を抱く天使であるが、右下隅に「すす

され、当初五十銭見当であったものが九十銭という高額となった（『国民新聞』一九二二年二月四日。神戸大学附属図書館戦前期新聞経緯記事文庫データベース <<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ContentViewMain.jsp?METAID=00841764>>。64&TYPE=HTML\_FILE&POS=1&TOP\_METAID=00841764）。

平和記念東京博覧会の絵葉書は何種類もあった。その中で、山田氏所蔵のいくつかを紹介したい。

NO.039は記念絵葉書セットの入っていた封筒で、「原色版」と銘打っているが、彩色写真絵葉書で、それは他のセットも同様である。この封筒には八枚入っていた。NO.025は一四枚入りで、

「む」との署名がみえる。NO.032は平和の象徴である白い鳩をモチーフにした絵葉書入れで、東京図案印刷株式会社によるものだが、甲種と乙種があった。

NO.026からNO.029はNO.025に入っているもの一部である。

NO.026は機械館でハムを切ったような形をしている。手前の橋を渡ると不忍之池に張り出した弁天島に行く。NO.027は動力館。機械館の横にあった。この絵葉書は印刷が極めて悪い。右手奥にみえるのは外国館。NO.028はこのセットの売りであったであろう二枚セットでの第二会場のパノラマである。右手前が北海道館。

右手奥の洋風建築が外国館。対岸右手が機械館。左手に航空館、交通館がある。弁天島右手に六段の塔があり、「つちやたび」の宣伝がみえる。NO.029は三月二八日の「摂政宮殿下平博行啓」（『中外商業』、『大正ニュース事典』V 毎日コミュニケーションズ出版事業部、一九八八年）。一年前より撰政をつとめた、のちの昭和天皇裕仁の参観があった。この絵葉書は、病弱な大正天皇にかわって次期天皇像を印象付けるものであったのであろうか。

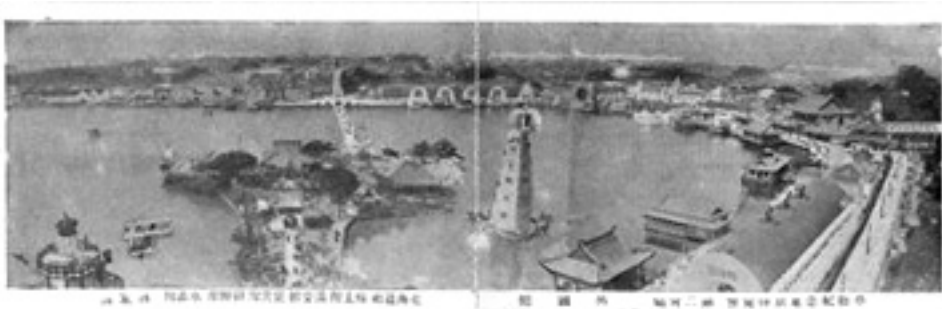
NO.030、031は絵葉書入れが無いが、八枚一セットの彩色写真絵葉書。NO.030は演芸館で、入場料は大人一円であった。通行人中央付近に軍人の姿がみえる。NO.031は朝鮮館。その奥は台湾館。手前には屋根に赤いポストをのせた「エハガキ売店」がある。



No.026 平和東京博覧会 機械館



No.027 平和東京博覧会 動力館



No.028 平和東京博覧会 会場パノラマ



No.029 平和東京博覧会 攝政宮

No.029 平和東京博覧会 攝政宮



No.030 平和東京博覧会 演芸館



No.031 平和東京博覧会 朝鮮館



No.035 平和東京博覧会 絵葉書入れ乙

NO.035はNO.032と同じ会社による絵葉書入れで乙種である。こちらは四枚だけ手元にあるが、甲種同様に平和博覧会の全像、主催意義等を記念したもののようである。

NO.033はNO.032（甲種）に入っている「平和記念東京博覧会々場配置図」である。左上に水色一厘五銭切手（田沢型旧大正毛紙切手一九一三）が貼られ、葡萄茶色の記念スタンプが捺されている。NO.034は日本を中心とした地球に平和の女神、下部に歯車と鎌を刺した稲藁が描かれ、工業と農業の発展を示している。左より「総裁閑院宮殿下」、「洪沢協会会長」「宇佐見博覧会長」の楕円形肖像写真が配されている。左

下には中央に鳩を描いた青色の記念スタンプが捺されている。NO.033と記念スタンプが違う。全く同じ絵柄が乙種にもあり、こちらには田沢

型切手に葡萄茶色の記念スタンプとともに、左下に同じ鳩を描いた記念スタンプが捺されている。「総裁閑院宮殿下」は近衛師団長から後に元帥陸軍大将になる閑院宮載仁（ことひと）親王。「洪沢協会会長」は洪沢栄一。「宇佐見博覧会長」は宇佐見勝夫東京市長。

NO.036は「平和記念東京博覧会状勢一班」と題する賞状様の博覧会説明である。会場総面積や本館名称、興業物名称などが記載されている。その中には「サークリンクスケート館」や、「義士館」のほか、人気のあった「水上活走飛行場」もみえる。

NO.037は別のセットの一枚。「（平和記念東京博覧会）航空館 第二会場」と写真下にみえる。航空館手前にNO.031と同じ「エハガキ売店」が写っている。飛行機は第一次世界大戦では美戦に投入されるなど、その発展はめざましく、日本ですでに一九一〇年に徳川大尉、日野大尉が日本初の動力飛行に成功しており、人々の関心も高かった。

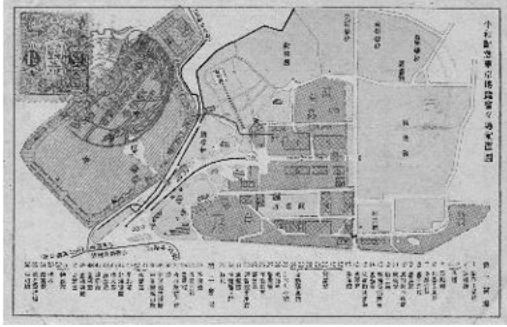
NO.038も別のセットの一枚である。黒字で「（平和記念東京博覧会）夜の美景 台湾館」と写真下にみえる。彩色写真絵葉書。

NO.040はNO.039の中の一枚。第一会場の建築館である。NO.041は第二会場の平和塔。NO.042は第二会場の万国館。右手に大きく「南洋館」とみえる。

平和記念東京博覧会は規模の割には入場者、特に再入場者を獲得する魅力に乏しかったといわれる。当時、中条百合子という名前で



絵葉書にみる大正時代の博覧会



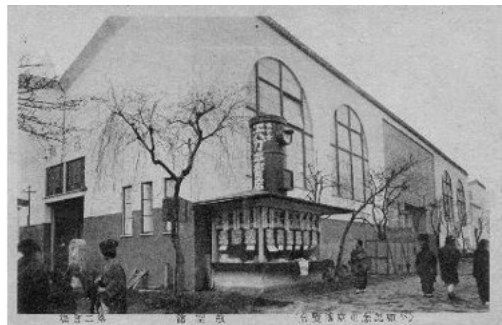
No.033 平和東京博覧会 会場見取り図



No.034 平和東京博覧会 主催者



No.035 平和東京博覧会 情勢



No.037 平和東京博覧会 航空館



No.038 平和東京博覧会 台湾館夜景



No.040 平和東京博覧会 建築館

活動していた、父親が建築家でもあった作家宮本百合子は『婦人公論』一九二二年五月号に以下のコメントをしている。

まだ第二会場を一遍通り抜けただけなのでよく分りません。建物から云っては、決して感じよい建築とは思えません。モダンなのはよいが、もう少し、外国雑誌の写真の、皮相的模倣以外に出られなかったものでしょうか。一目見てごたごたし、雑駁な印象を強く与えられたから、しんから愛らしい心持で欲しいなと思うようなものは見つかりませんでした（山口俊雄「日本文学と博覧会」<http://www.manabi.pref.aichi.jp/general/10005505/0/index.html>）。

## 6 住宅改造博覧会

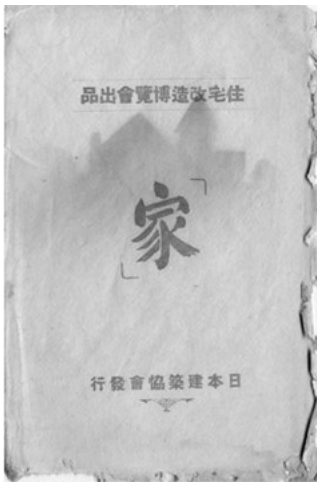
平和記念東京博覧会と同じ年、九月二一日から十一月二〇日に兵庫県箕面市桜ヶ丘を会場として、日本建築学会主催で催され六八万人を集めた。ちなみに、平和記念東京博覧会でも場内に文化村と称するモデルハウスが展示された。「居間」を中心とした椅子式生活の洋風の「文化住宅」が注目されており、家族本意の生活への転換を促した（「平和記念東京博覧会」<http://www001.upp.so-net.ne.jp/fukushi/year/1922.html#event>、内田青蔵『消えたモダン東京』河出書房新社、二〇〇二年）。

箕面市桜ヶ丘総面積一万六千五百平方メートルの会場に実物の住宅二五棟が出品されたという。このうち、八棟が現存し四棟が国の登録文化財に指定されている。（大阪日日新聞 大阪を巡る―府内市町村を訪ね

て―<http://www.nm.co.jp/dainichi/rensai/megurur/megurur060807.html>）。

住宅改造博覧会の目的は、「一般の人々に住宅建築に対する各種の知識を与うると同時に、直に各種の実物住宅を示し「住宅」に関する二重生活の打破と、そして又中流階級の住宅改造が、どれだけ今日に於ては急務であるか、またどれだけそれによって便利と趣味とが得られるかと云うことを実際的に示し文化向上に資せんとする」もので、「大正博の「文化村」と云う臨時の企てではなく、開期が終ると同時に其儘に住い得られるようになって、ほんとうに力強い、そして実質のある博覧会であつた（住宅改造博覧会巡り（其一）「其九」、神戸大学附属図書館戦前新聞経済記事文庫データベース [http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?MEFTAID=00841880&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1&TOP\\_MEFTAID=00841880](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?MEFTAID=00841880&TYPE=HTML_FILE&POS=1&TOP_MEFTAID=00841880)）。

住宅改造博覧会開催は、先にも述べた生活改善運動の流れとともに、富国強兵策による産業推進から工業都市大阪の環境が著しく悪化し、より良い住環境を求めて市民の目が郊外に向けられるようになつたことも



No.043 住宅改造博 絵葉書入れ

一因であつた。その背景には産業の変化による職住の分離、発達してきた私鉄によ

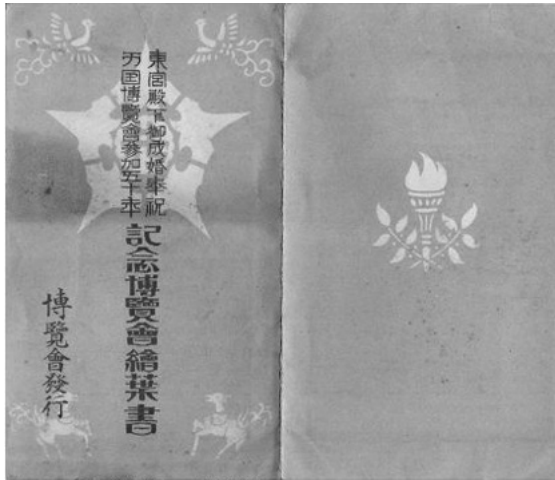


No.044 住宅改造博 実景 (其四)

沿線郊外宅地の開発、そして当時盛んとなったユートピアズムにもとづく田園都市への憧れなどが指摘されている(木村哲矢建築計画事務所「桜ヶ丘住宅改造博覧会の現在」<http://www.jade.dti.ne.jp/~kimura/mino/zyutakuha/ku/zyutakuhaku.htm>)。

NO.043は絵葉書入れ封筒。家並みの一部を赤色のボカシで入れ、「家」と中央に記載した非常にシンプルなもの。この中に五枚の彩色写真絵葉書が現存する。いずれも実景写真で、NO.044は「其四」である。絵葉書上部に絵葉書に写っている家の出品主が記載されており、この絵葉書では建築協会出品の第二号から第四号住宅がみえる。

箕面の山並みを背景に、中流階級向けのアール・デコ調の家具にベッドといたった洋風建築の家が建ち並び、生け垣や門が造成中である。生活の洋風化にこたえた和洋折衷の住空間が特徴で、会期後は分譲されるため、道路や上下水道なども整備された(『週間 日録20世紀 1933』、講談社、一九九八年)。



No.045 記念博覧会 絵葉書入

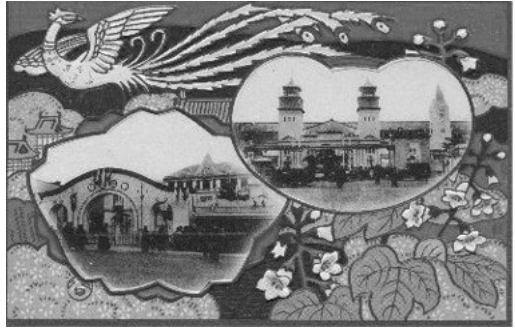
7 東宮殿下御成婚奉祝  
万国博覧會参加五十年記念博覧會

一九二四年三月二〇日から五月二〇日まで京都岡崎公園において開催され、一二二万人を集めた。一九二〇年の宮中某重大事件をのりこえて東宮殿下(迪宮裕仁親王)と久邇宮良子女王との御成婚は同年正月二六日である。また、日本が初めてウィーン万国博覧會に参加したのは一八七三年(明治六年)であった。前年の関東大震災のため、京都市での開催となった。

NO.045は絵葉書入れ封筒。上部中央に京都市章。上部両端に鳳凰、下部両端に麒麟(?)が配されて御成婚奉祝を、裏面に聖火を描いて万国博覧會参加記念を表している。



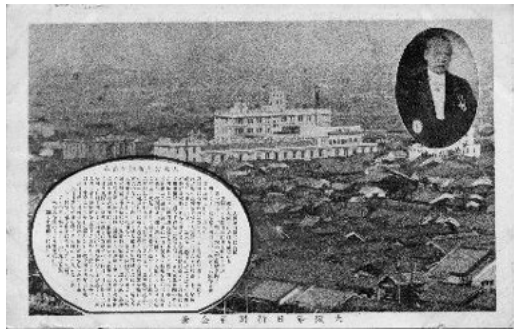
No.046 記念博覧会 国旗



No.047 記念博覧会 鳳凰



No.048 大大阪博 広告



No.049 大大阪博 毎日新聞社



No.050 大大阪博 絵葉書入



No.051 大大阪博 音楽堂

に万国旗を散らして万国博覧会参加記念を示し、楕円形様に会場写真を二つ配したものの。左は京都帝国博物館であろうか、右は第三会場の文字がみえる。NO.047は桜に覆われた京都の風景に、左上部に鳳凰を配して御成婚奉祝を示し、花びら様に会場写真を二つ配したものの。左は第二会場正門。右は某館であるが、右手前の塔に「壽(?)久娘」とみえる。酒の宣伝であろうか。

なお、岡崎公園「記念動物園」は、皇太子の成婚記念として造られたものである(図説 京都府の歴史 河出書房新社、一九九四年)。

## 8 大大阪記念博覧会

一九二五年三月一五日から四月三〇日まで、大阪天王寺公園、大阪城などを会場にして、大阪毎日新聞社が一五〇〇〇号記念事業の一環として主催、開催され一八七万人を集めた(津金沢聡広「大阪毎日新聞社の『事業活動』と地域生活・文化―本山彦一時代を中心に」、津金沢聡広編『近代日本のメディア・イベント』同文館出版、一九九六年)。

この年、大阪市は東成郡・西成郡を合併し、大規模な市域拡張を行い、これにより大阪市は東京市を人口・面積で抜き、日本最大規模の都市となった。いわゆる大大阪時代の始まりであり、大阪の現状や未来の姿を「パノラマ館」や「参考館」など、様々なパピオリオンで展示した(「大阪市立図書館 Webギャラリー 大大阪記念博覧会」<http://www.oncity.osaka.jp/image/themes/theme529.html>)。



No.052 大大阪博 朝鮮館ほか

大大阪記念博覧会記念絵葉書のセットは、山田氏のもとに二種類ある。一つはNO.048、049

ほか一枚で、大阪毎日新聞の紹介的なものである。NO.048は博覧会ポスターを絵葉書図案にしたもの。NO.049は「大阪毎日新聞社全景」で、当時の大阪の町並みが知られる。右上に楕円形の「本社長本山彦一氏」肖像写真、左下に「大阪毎日新聞社の沿革」が楕円形状に細かく記載されている。本山彦一は明治から昭和初期に活躍した日本を代表する新聞経営者で、一九〇三年社長になるが、毎日新聞社の発展はこの本山時代に築かれたものといわれる。当時、営利が卑しめられていた新聞界でいち早く「新聞商品主義」を唱え、その独立を保障する基盤の重要性を説いた(「日本新聞博物館 日本新聞人」春原昭彦執筆<http://www.pressnet.or.jp/newspark/data/sinbunjin.html>)。NO.050は前掲とは別セットの絵葉書入れ封筒。図柄は末広がりを象った正門であろうか。中央に記念スタンプが捺されている。NO.051は「新設されたる音楽堂」の写真。「ブルトーズ」とみ

える。演奏中の楽曲は「我が見し夢」と掲示されている。左上に同様の記念スタンプ。

NO.052は青字で「暁鐘塔 朝鮮館 満蒙館」とあり、左上に同様の記念スタンプがある。NO.053は茶字で「大阪城の豊公館」とあり、これも左上に同様の記念スタンプがある。「大阪市立図書館 Webギャラリー 大大阪記念博覧会」ホームページにも全く同じ絵葉書が掲載されており、「博覧会の建物は「サラセン式、モダンサラセン式、北支（満蒙）式、朝鮮式、桃山式、南支式に基礎をおいて」建てられた」「暁鐘塔はサラセン式で建設されて」いたと説明されている。同ホームページには豊公館の説明もあり、「200坪の面積に桃山式によって建てられた豊公館は、名前の通り豊臣秀吉の活躍した時代の資料を展示していました。追手門からこちらの会場につながる道は一本しかなく、そのため大変な混雑が起こり、人手の多い日などは入場制限も行われたそうです。」とある。



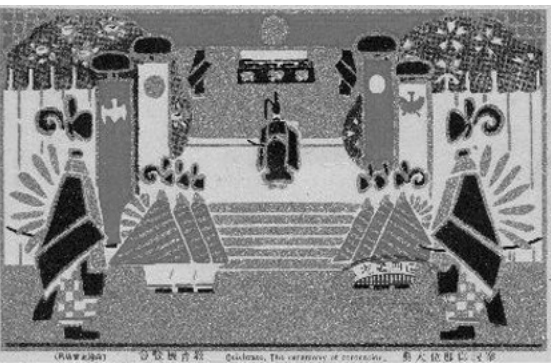
No.053 大大阪博 豊公館

で復興させた  
い」との提案  
があり、全会  
一致で可決さ  
れるが（好っきゃ  
ねん！ 解明!?  
大阪城の七不思議」

その6復興3代目天守閣 <http://osce.jp/sukiyamen/index.html>）、豊公館のこのときの好評ぶりを、何とか恒常的に再現できないだろうかということとを、アイデアマンとして知られた後藤新平伯爵が、関市長にちょっと耳打ちしたことがあり、それが影響したのではないかといわれている（渡邊武「昭和の大阪城」『大阪城30年』大阪書籍、一九八二年）。

## 9 奉祝御即位大典教育展覧会

奉祝御即位大典京都博覧会は大正四年一〇月一〇日から十二月一日まで、京都岡崎公園で開催された。一月一〇日の大正天皇即位式を奉祝するもので、



No.054 即位大典教育博覧会

主な内容は、京都の生産品展観と文部省主催の美術展覧会であった。第四回内国勸業博覧会（京都）に比して財政難などのため規模を計画より縮小したが、入場者は八六万人にのぼった（都市史二九 京都の博覧会 [http://www.city.kyo.to.jp/sonnu/rekishu/fm/nenpyo\\_u/humishuev/tosh29.htm#d](http://www.city.kyo.to.jp/sonnu/rekishu/fm/nenpyo_u/humishuev/tosh29.htm#d)）。

メインは大礼館で、舞楽「万歳楽」「太平楽」の装束をつけた人形が展示された。また、玉座の模型や紫宸殿儀式の大模型は圧巻であったという。この時期、全国各地で記念行事が開催されたが、京都は特別であった（前掲『別冊太陽 日本の博覧会』）。花電車が走ったことは、前稿（絵葉書にみる明治イマジネーションの形成と国粹主義の時代へ（一九〇六―一八）、「帝塚山学院大学研究紀要」四〇、二〇〇六年二月）でも触れている。

右下に楕円形の青紫色記念スタンプがあり、下枠外に「奉祝御即位大典 Celebrate. The ceremony of coronation. 教育展覧会（森絵葉書店納）」とある。

### おわりに

明治時代における日清・日露両戦役を勝利し、膨張した植民地と産業の発展、第一次世界大戦による好景気を背景に、近代化が大衆生活にまで及んだ大正時代は、また世界大戦後の国際平和協調の機運のなかで、つかのまの平和と文化を謳歌した時代でもあった。

わずか一五年間に多くの博覧会が開催されたのは、国民における日露戦後の享楽的傾向と近代化の進展にともなう「個」の意識の成長とが、勤業的色彩を超えた娯乐的、文化教育の側面を有する博覧会を求めたからに違いない。また、国家側も植民地主義から広く国民に植民地を認識させる目的もあり、近代的文化国家への発展を促す必要、また、欧米個人主義に対する新しい日本的「家」の提示

などの目的があった（桑山敬己「大正の家族と文化ナショナリズム」、『日本の時代史二四 大正社会と改造の潮流』所収、吉川弘文館、二〇〇四年）。

博覧会絵葉書は、こうした時代の雰囲気をよく伝えるものである。明治や昭和の博覧会・共進会絵葉書などの比較において、より一層明らかとなるものは少なくないと想われるが、それは後日を期したい。

〔付記〕この博覧会絵葉書の調査・収集等は、平成一九年度帝塚山学院大学研究助成を受けたものであり、本稿はその成果の一部である。

大正時代博覧会年表

西暦	大正	会期	名称	開地	会場	主催者・その他	入場者	
1912	1	01.21	日本初のスキー競技会開催					
		04.01	05.31	第8回全国製産品博覧会	京都	岡崎公園博覧会館	京都博覧協会	201,549
		04.01	05.31	第3回日本産業博覧会	大阪		日本産業協会	
		04.15	05.05	第2回こども博覧会	愛知	松坂屋名古屋		
		04.15	タイタニック号沈没					
		06	08	第2回納涼博覧会	東京	上野公園	東京勸業協会	
		07.06	第5回オリンピック(ストックホルム)					
		07.29	明治天皇没					
		08.01	友愛会結成					
		10.01	11.29	明治記念・拓殖博覧会●	東京	上野公園・不忍池畔	北海道出品協会	616,315
				山陰鉄道開通記念全国特産品博覧会	鳥取	米子		
				第2回東京勸業博覧会	東京			
1913	2	02.15	03.28	旅行博覧会	大阪	府立博物場	旅行博覧協会	
		04.01	05.31	第4回日本産業博覧会	大阪		日本産業協会	
		04.01		第7回全国特産品博覧会	広島	尾道		
		04.01	北陸本線全通					
		04.20	05.15	舞鶴築港記念全国物産博覧会	京都	舞鶴町	京都府・舞鶴町	
		04.21	06.19	明治記念拓殖博覧会	大阪	天王寺公園勸業館、美術館	大阪商工会	161,427
		06.10	森永ミルクキャラメル発売					
		06.25	08.31	明治記念博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	やまと新聞社	
		08.05	岩波書店開業					
				第八回全国特産品博覧会				
				婦人博覧会	兵庫			
この年、流行歌:早春賦								
1914	3	01.12	桜島大噴火					
		03.15	05.31	第2回発明品博覧会	大阪	天王寺公園	帝国発明協会・大阪実業協会	307,573
		03.20	07.31	東京大正博覧会●	東京	上野公園	東京府	7,463,400
		04.01	05.31	会国美術工芸博覧会	京都	岡崎公園勸業館	京都博覧協会、美術協会	100,069
		04.01	05.31	第6回日本産業博覧会	大阪		日本産業協会	
		04.01		婚礼博覧会	兵庫	宝塚温泉		
		04.01	宝塚少女歌劇第1回公演(婚礼博覧会余興)					
		04.11	昭憲皇太后没					
		06.28	第一次世界大戦始まる(サラエボ事件)					
		07.01		戦捷記念博覧会	東京	上野公園	やまと新聞社	
		07.11		第2回納涼博覧会	大阪	千日前楽天地	大阪日報社	



絵葉書にみる大正時代の博覧会

		08,15	パナマ運河開通				
		08,15	三越呉服店本館落成、デパート本邦初のエスカレーター設置				
		1001	1129	大典記念神戸博覧会	兵庫	湊川公園勸業館	神戸新聞社
		12,18	東京中央停車場(東京駅)開業				
				第10回全国特産品博覧会			
この年、大正デモクラシー 流行歌:故郷							
1915	4	01,18	対華21カ条の要求(中国5月9日承認「国恥記念日」)				
		01,20		戦捷記念博覧会	東京	上野公園	毎日新聞社
		04,01	05,21	戦捷記念博覧会	京都	岡崎公園勸業館	京都博覧協会、美術協会 184,026
		04,01	05,31	第7回日本産業博覧会	大阪	天王寺公園	日本産業協会 307,064
		07,10	10,10	江戸記念博覧会	東京	上野公園	中央新聞社
		07,15	08,30	大阪衛生博覧会	大阪	天王寺公園	大阪衛生組合連合会
		08,18	第1回中学野球全国大会				
		10,01	12,03	大礼記念大阪博覧会	大阪	天王寺公園	大阪商工会議所、実業協会 135,522
		10,10	12,19	大典記念京都博覧会	京都	岡崎公園	京都市 861,155
		11,10	大正天皇即位礼挙行				
		12,04	大戦景気の始まり				
				第2回発明品博覧会	東京	上野公園	帝国発明協会
				大礼記念交通電気博覧会			
				家庭博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	国民新聞社
1916	5	09,01	11,30	海事水産博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	帝国海事協会
		09,01	工場法施行				
		09,15	11,26	婦人子供博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	読売新聞社
		10,15	11,15	通俗教育こども博覧会	京都	岡崎公園第2勸業館	
		11,03	裕仁親王立太子礼				
		12,09	夏目漱石没				
				大正製菓博覧会			
				第2回国産食料品博覧会			
				内国特産飲食品博覧会			
この年、チャップリン映画人気、「電気扇風機」発売							
1917	6	03,12	ロシア二月革命				
		03,20	05,31	奠都50年記念奉祝博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	読売新聞社
		04,01	06,07	第8回日本産業博覧会	大阪		日本産業協会
		04,01	05,31	京都博覧会	京都	岡崎公園勸業館	京都博覧協会、美術協会 239,245
		04,20	05,19	津山産業博覧会	岡山	津山	
		09,20	11,18	第1回化学工業博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	化学工業協会
				神戸市衛生博覧会	兵庫		
				福山市制記念全国特産品博覧会	広島		福山市

この年、流行歌・安来節、セルロイド製キューピー人形誕生								
1918	7	02.11	憲法発布 30 周年祝賀国民大会					
		03.20	05.20	電気博覧会●	東京	上野公園・不忍池畔	電気協会	1,146,369
		04.01	05.31	第 16 回京都博覧会	京都	岡崎公園勸業館	京都博覧協会、美術協会	186,796
		04.15	06.15	大阪化学工業博覧会	大阪	天王寺公園	大阪商工会議所	417,926
		07.11	09.08	第 2 回婦人子供博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	読売新聞社	
		07.23	米騒動起こる					
		08.01	09.19	開道 50 年記念北海道博覧会	北海道	札幌中島公園、五稜郭他	北海道農友会	1,425,000
		08.02	シベリア出兵を宣言					
		09.20	東京海上ビルディング完成(ビルディングのはじめ)					
		11.11	第 1 次世界大戦終結					
		12.06	大学令を公布					
				宝塚子ども博覧会	兵庫	宝塚		
				高岡産業博覧会	富山			1,000,000
この年、スペイン風邪世界的に大流行、東京市内でも火葬場は遺骸の山、翌年 3 月までで全国 38 万人死亡								
1919	8	01.18	パリ講和会議開催					
		03.01	3・1 朝鮮独立運動、万歳事件					
		03.15	05.20	婦人子ども博覧会	大阪		大阪朝報社	
		03.18	05.31	畜産工芸博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	中央畜産会	502,848
		04.01	05.31	全国染織工業博覧会	京都	岡崎公園勸業館、商品陳列所	京都博覧協会、美術協会	142,908
		04.06	ガンジーの非暴力運動始まる					
		04.20	05.20	上海日華貿易博覧会	上海	上海英租界三馬路天外旧跡	上海日華貿易博覧会	
		05.04	北京 5・4 運動(抗日運動)					
		06.28	ベルサイユ条約調印					
		07.05	08.31	戦捷記念全国衛生博覧会	京都	岡崎勸業館	京都市連合衛生組合	564,201
		09.01	12.10	貿易博覧会	大阪	府立商品陳列所	大阪府	
				全国特産品博覧会				
1920	9	03.15	株価暴落、戦後恐慌始まる					
		03.21		新聞博覧会	大阪	天王寺公園	大阪電報通信社創設第 15 周年会及神戸新聞社	
		03.28	新婦人協会発足					
		04.01	05.20	全国勸業博覧会	京都	岡崎公園勸業館特設館	京都博覧協会、美術協会	332,387
		04.20	05.31	生活改造博覧会	大阪	大阪商品陳列所	桜楓会大阪支部	100,000
		05.02	日本初のメーデー					
		05.10	第 1 回総選挙					
		08.14	第 7 回オリンピック(ベルギー・アントワープ)開催					
		10.01	第 1 回国勢調査実施					
		11.		万国婦人生産品展覧会	東京			

絵葉書にみる大正時代の博覧会

		12	宮中某重大事件					
				福岡工業博覧会	福岡	須崎裏と西公園下		
この年、流行歌:赤とんぼ								
1921	10	03.02	04.20	大正衛生博覧会	東京	両国国技館	大日本衛生普及会	
		03.20	05.22	内外産業博覧会	京都	岡崎公園勸業館特設館	京都博覧協会 252129	
		03.21	05.01	児童衛生博覧会	大阪	大阪商品陳列所	大阪府衛生会	
		07.05	09.05	戦後発展・全国工業博覧会	京都	岡崎公園		
		10.12	11.10	伊賀文化産業城落成記念全国博覧会	三重	上野白鳳公園	伊賀上野町	
		10		工作機械博覧会	大阪	大阪高等工業学校移転跡		
		11.04	原敬、東京駅頭にて刺殺					
		11.12	ワシントン会議開催					
		11		大正衛生博覧会	広島	呉市本通9丁目世界館跡		
				北海道拓殖博覧会	北海道	総曲輪小学校、富山商品陳列所、富山商業学校		
				戦後発展全国商工博覧会	広島	府中町		
				コトモ博覧会	福岡	西公園		
1922	11	03.10	07.31	平和記念東京博覧会●	東京	上野公園・不忍池畔	東京都 11,032,584	
		03.20	05.31	第1回家庭博覧会	京都	岡崎公園勸業館	京都博覧協会 212838	
		04.01	04.30	大阪計量博覧会	大阪	府立商品陳列所	計量革新会	
		09.21	11.20	住宅改造博覧会●	兵庫	箕面桜ヶ丘	日本建築学会 68,000	
				平和記念全国商工業美術博覧会				
1923	12	02.20	丸ノ内ビルディング完成					
		03.20	05.18	第3回発明品博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	帝国発明協会 425,824	
		03.20	05.20	第2回家庭博覧会	京都	岡崎勸業館・二条疏水	京都博覧協会 206,838	
		04.01	05.10	裏日本鉄道全通・新舞鶴港開港記念博覧会	京都	舞鶴		
		09.01	関東大震災					
		10.20	11.30	大阪市電気軌道開業満20年交通博覧会	大阪	天王寺公園勸業館他	大阪市 358,070	
		12.27	虎の門事件					
				大牟田産業博覧会	福岡			
				熊本産業博覧会	熊本			
				電気工業博覧会	愛知	名古屋		
この年、流行歌:月の砂漠 日本航空創立								
1924	13	01.10	第二次護憲運動					
		01.26	皇太子御成婚					
		03.20	05.20	東宮殿下御成婚奉祝万国博覧会参加50年記念博覧会●	京都	岡崎公園	京都市 1217,927	
		07.01	メートル法実施					
		08.01	阪神甲子園球場竣工					

				子供衛生博覧会	長崎	諏訪公園	長崎市	
1925	14	03.10	05.18	第2回畜産工芸博覧会	東京	上野公園	中央畜産会	273617
		03.15	04.30	大・大阪博覧会●	大阪	天王寺公園・大阪城	大阪毎日新聞社	1878,468
		03.20	05.25	優良国産博覧会	京都	岡崎勸業館	京都博覧会社	310812
		03.21	05.10	新農業博覧会	三重	宇治山田市	名古屋新聞社	
		03.29	普通選挙法成立					
		04.10	05.28	日本絹業博覧会	兵庫	神戸港海岸埋立地・湊川公園	兵庫県博覧会協会	1,000,000
		06.15	07.10	コドモの趣味と衛生博覧会	兵庫	湊川公園		
		07.12	ラジオ放送開始					
		08.10	09.18	市政10周年記念大連勸業博覧会	上海	上海西公園・電気遊園下	大連市	360524
		09.20	東京6大学野球リーグ開始					
		10		電気博覧会	東京	上野公園		
		11.01	山手線・環状運転開始					
1926	15	01.13	02.14	皇孫御誕生記念・こども博覧会	東京	上野公園・不忍池畔	東京日日新聞社	500,000
		01.20	05.18	大日本勸業博覧会	岡山		岡山市	
		03.19	05.21	第2回化学工業博覧会	東京	上野公園	化学工業協会	
		03.20	05.23	国際発展博覧会	京都	岡崎勸業館	京都博覧会協会	198,903
		03.20	05.31	電気大博覧会	大阪	港区八幡町・天王寺公園	(社)電気協会関西支部	2,900,862
		04.01	05.10	全国産業博覧会	兵庫	姫路城南練兵場	姫路商業会議所	440,416
		05.01	06.10	こども教育博覧会	大阪		大阪朝報社	
		05.01	06.20	衛生大博覧会	大阪	天王寺公園勸業館	大阪新報社	
		05.13	06.11	朝鮮大博覧会	朝鮮	景福宮	朝鮮新聞社	
		06.11	07.20	新潟築港記念博覧会	新潟	新潟新公園	新潟市	
		07.01	08.20	皇孫御誕生記念こども博覧会	京都	岡崎公園	大阪毎日・東京日日新聞社	1,509,544
		08.01	08.30	国産振興博覧会	北海道	札幌中央公園・商品陳列所	北海タイムス社	513,051
		10.01	10.31	名古屋衛生博覧会	愛知	名古屋第一高女跡	名古屋市総合衛生会	
		10.01		国産振興汽車博覧会	大阪	東京、大阪、七大都市		
		12.25	大正天皇没					
				樺太博覧会	樺太			
				産業文化博覧会				
この年、モボ・モガ流行								

橋爪紳也・中谷作次「博覧会見物」(学芸出版社、1990年)、橋爪紳也監修「別冊太陽 日本の博覧会」(平凡社、2005年)参照

●は本稿で掲示したもの。